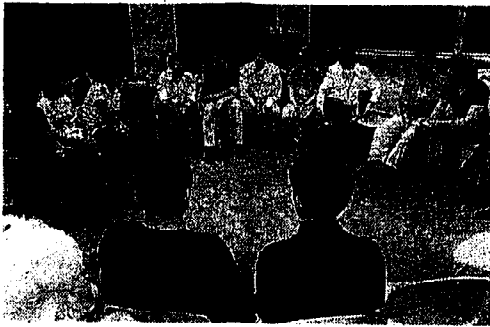


# 文化や環境 意見交換

## 日独青年が県内各地で



群馬大工学部の学生と交流するドイツ学生

県世界青年友の会(隅谷義正理事長)の「日独学生青年リーダー交流事業 群馬プログラム」が十九日から二十四日まで、県内各地で行われ、ドイツから訪れたメンバー十七人と県内の学生らが交流を深めている。

交流事業は、文部科学省から委託されて、国立オリンピック記念青少年総合センターが実施。十三日から始まり、十九日、二十七日のドイツの学生メンバーが十五日間かけて日本の学生と交流する。青少年団体などで活動する日独の青年リーダーが、共通の課題や文化体験を通して交流するこ

とが狙い。

六日間の群馬プログラムは県世界青年友の会が

担当。十九日は草津で温泉体験、二十日は嬭恋や中之条の資料館で郷土文化を学んだ。二十一日は尾島小学校(太田市)を訪れた後、群馬大工学部(桐生市)や高崎経済大(高崎市)を訪問。群馬大工学部では自然環境と科学技術に関する講義を受け、学生十人と交流会を行った。

メンバーと群馬大の学生は「桐生市はどのようにこみを分別しているか」「ドイツの名物は何か」など、互いの文化について質問しながら、活発に意見を交わした。

メンバーは二十二日から二十四日まで、太田市、伊勢崎市などを訪れ、ホームステイや日本文化体

験の交流プログラムに参加する。